

肝胆膵内科を受診している患者さんへ

当院では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会で倫理的観点及び科学的観点から中立的かつ公正に審査され、研究機関の長に認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。この研究へのご質問や研究に係る相談だけでなく、個人情報の開示を希望される場合、研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧を希望される場合は、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。研究計画書等は、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で閲覧が可能です。

記

研究課題名	肝門部両葉金属ステント留置後閉塞に対するラジオ波焼灼療法の有用性に関する後方視的比較検討
研究機関の長(試料・情報の管理責任者)	愛知医科大学病院 病院長 道勇学
研究責任者	(所属) 内科学講座 (肝胆膵内科) (職名) 准教授 (氏名) 井上匡央
研究の対象となる方	愛知医科大学病院、名古屋市立大学病院、岐阜県立多治見病院、名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院にて、2010年1月以降研究期間中(2025年11月迄)に非切除悪性肝門部胆管狭窄に対して両葉金属ステント留置が施行された後に、閉塞を来し再治療が行われた患者さん。
研究期間	研究実施承認日 ~ 2026年3月31日
研究目的及び利用方法	<p>[研究目的]</p> <p>非切除悪性肝門部胆管狭窄に対する両葉金属ステント留置後の閉塞において、再治療としての管腔内ラジオ波焼灼療法とプラスチックステント留置の治療成績を比較検討することを目的としています。</p> <p>[利用方法]</p> <p>診療録(カルテ)から、当該診療に関する情報を収集し検討を行います。具体的には病名や臨床経過、内視鏡検査、CT検査、X線検査などの画像所見や血液検査所見などの項目を参照させていただきます。利用する情報から、お名前、住所など個人を特定できる個人情報は削除して利用します。また研究の結果が学会や医学論文などで公表される場合がありますが、患者さん個人を特定出来るような情報は一切含まれません。</p> <p>研究計画や研究の方法についての資料を入手・閲覧することを希望される場合は担当医師にその旨をお伝えください。個人情報保護やこの研究の実施に支障を来さない範囲で提示いたします。</p> <p>[外部への試料・情報の提供]</p> <p>非該当</p> <p>[外部への提供開始日]</p> <p>非該当</p>

研究に用いる試料・情報の取得方法及び項目	試料：【非該当】 情報：診療録から情報、血液検査結果、画像データ等を収集
提供する試料・情報を用いる学外の研究責任者	【非該当】
試料・情報を利用する学外の者	【非該当】
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への情報の利用又は提供を希望しない方は、2026年2月28日までにお電話により下記問い合わせ先まで申し出てください。ただし、情報解析前で情報が個人を識別できる場合のみ対応可能です。
外国への試料・情報の提供	【非該当】
問い合わせ先	愛知医科大学医学部 内科学講座（肝胆膵内科） 担当者：（職名）准教授 （氏名）井上匡央 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311（内線 23480）